

災害対応研修会に参加して

通研電気工業株式会社 伊藤 大貴・佐藤 亮輔

1 事業所の紹介

弊社は東北電力企業グループの一員として、コーポレートステートメントの「結ぶ・見まもる・創りだす」のもと電気を安全に送り届けるのに不可欠な通信機能やコントロール機能を担う様々な製品の開発・製造や装置の据え付け工事などを通じて、調整から運用、保守サービスまで一貫して提供することで電力の安定供給や効率化に貢献する企業であり、泉区に本社があります。

2 災害対応研修会を通じての取り組み

まだ残暑を感じさせる9月の初め、私たちは災害対応研修会にて1号消火栓の部に参加することとなりました。昨年も当社は参加していましたが惜しくも入賞とはならず、今年こそはと気力充分で、まずは事前研修会に参加しました。

事前研修会では屋内消火栓の仕組みを最初に学び、火災報知器のボタンを押さないと送水が始まらないことなど基本的な知識を身につけました。二人一組で行う1号消火栓操作は、それぞれの役割を全うするだけでなくお互いにフォローすることも大切になります。火事場で二人なら心にゆとりが生まれ、互いに助け補うことでスムーズな作業に結びつくからです。練習を何度か繰り返して、注意点や迅速に動くためのアドバイスなどを受けて徐々に上達することができ、本番では1号消火栓の部にて当社から最優秀賞と優秀賞を受賞することができました。

このほか今回の研修では、訓練装置を使った火の恐ろしさを改めて感じる体験をしました。初期消火の段階の膝下くらいの高さの火でも十分なほどの熱量を持ち、風下のギャラリーに熱風を浴びせていたのです。遠巻きにしている参加者でも、この熱さを感じるくらいなので消火器を握る彼らはこれに倍する熱気を感じていただろう、もしこれが実際の火災現場なら火の手が広がるほど熱量が体全体を襲い、火元に近づくことが困難となるだろうと思いました。今回学んだ1号消火栓は初期消火の手段の1つであり、早めの対応こそが重要であることを改めて感じたところです。

初めて消火栓を操作してから2カ月、今度は社内

の消火避難訓練で消火栓の使い方を実技指導してほしいとの要請があり、私たちは学んだことを伝えられるように、できるだけ本番と同じように実演し、消火栓の仕組みや操作するときの注意点を踏まえて全員が同じように扱えるよう解説しました。火災現場では、大きな混乱が予想される一方で、冷静な対応が求められます。消火設備の使い方を知っていればそれだけ冷静かつ円滑に行動できるので、このようにふだんから消火栓の操作法を広めていくことはとても大事なことだと改めて実感しております。

3 今後の防災に対する取り組みについて

今回の研修会を通じて、社内に防災の輪を広げる機会を得たことは何よりの成果でした。

今後も研修会等に積極的に参加し、そこで得た知識を社内に活かしながら今まで以上に質の高い防災訓練の実施と防災技能・意識の向上に努めてまいりたいと考えております。

——— 表彰式の様子 ———



〈 最優秀賞 〉



〈 優秀賞 〉